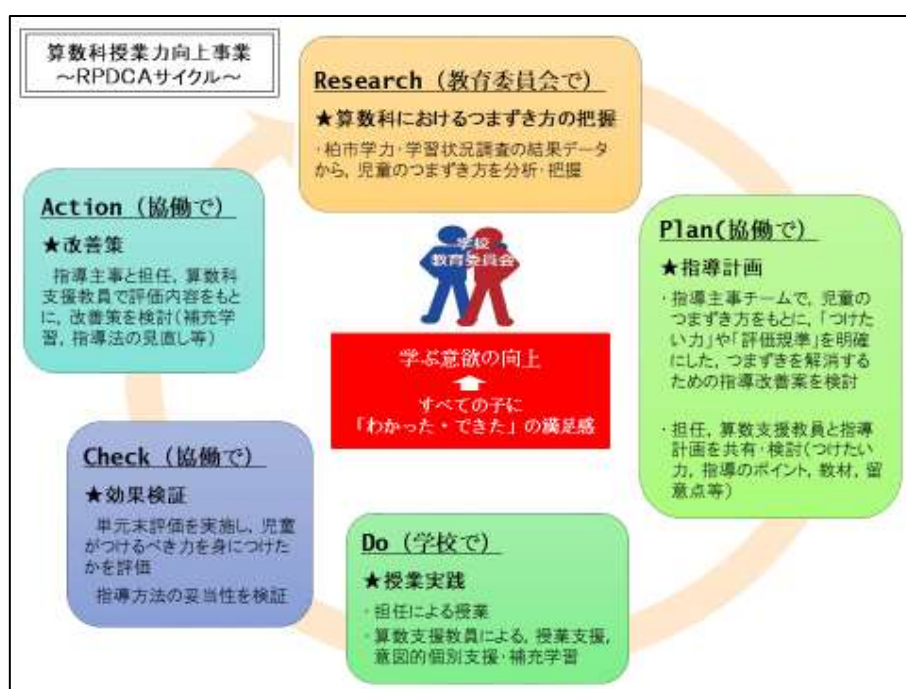


# 算数科授業力向上事業（第1期）事業報告

## 1 事業の趣旨

- ◇算数科におけるつまずき解消を目指した指導方法の改善に取り組むことにより、児童の学ぶ意欲の向上を図る。
- ◇校内研究を活性化し、子供の実態に即した授業改善サイクル『R（子供の実態把握）-PDC Aサイクル』を確立し、児童の学ぶ意欲の向上を図る。
- ◇実践校で効果をあげた算数科の授業改善モデルを、市内小中学校に普及することにより、柏市全体の授業力向上に資する。



## 2 事業の実施期間

平成30年度～令和2年度（3ヶ年）

## 3 事業の実践校（9校）

柏第三小学校 旭小学校 酒井根西小学校 逆井小学校 旭東小学校  
花野井小学校 風早南部小学校 風早北部小学校 手賀東小学校

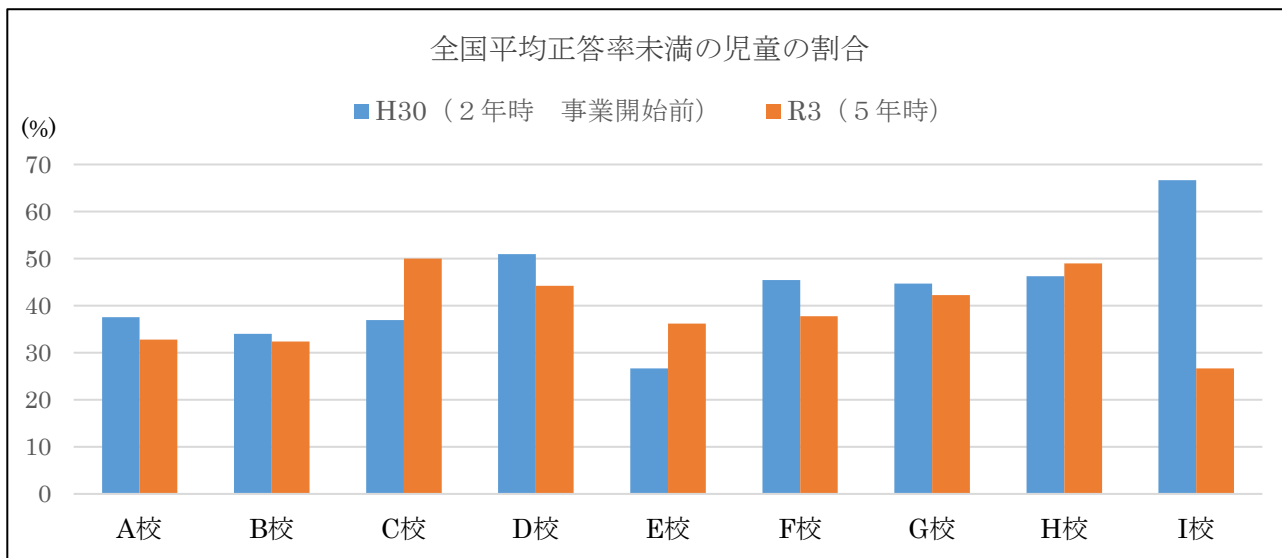
## 4 教育委員会の支援内容

- ・算数支援教員の週5日配置（主に2, 3, 4年生）による、算数科の授業補助、授業づくり支援
- ・担当指導主事の週1回訪問による、算数科の授業づくり支援
- ・柏市学力・学習状況調査結果の詳細な分析の提供

## 5 成果

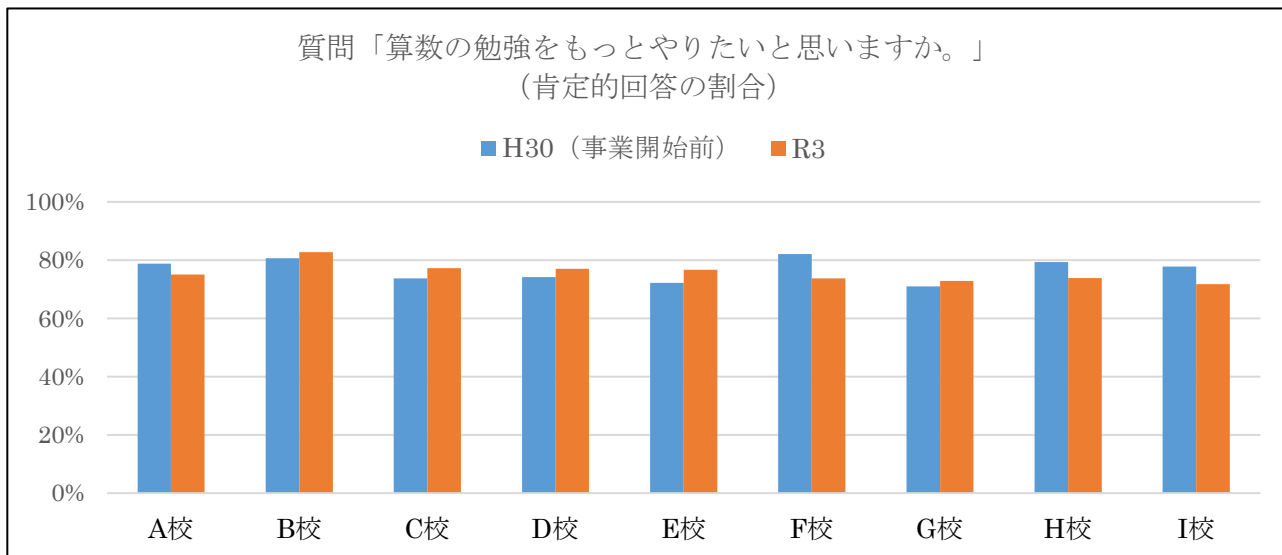
### (1) 児童の学力の変容

下の図は、令和3年度5年生について、全国平均正答率未満の児童の割合を表したものである。平成30年度の2年時と比較すると、9校中6校で減少が見られた。これは2～4年生に配置した算数支援教員によるきめの細かい実態把握と担任との協働授業により、学習内容の理解が高まった結果と考える。



### (2) 児童の意識の変容

下の図は、柏市学力調査と併せて毎年実施している『生活・学習意識調査』における質問項目「算数の勉強をもっとやりたいと思いますか」について、平成30年度（事業開始前）と令和3年度を比較したものである。実践校9校中5校において、肯定的回答の割合に向上が見られた。しかしながら、向上の割合が1.9～4.5%とばらつきがあり、本事業が児童の学ぶ意欲の向上に寄与したとは言い難い。



## 6 今後の取組

- ・本事業の趣旨である児童の学ぶ意欲の向上について、『生活・学習意識調査』の結果から効果を見取ることはできなかった。児童の学ぶ意欲の向上には、つまずき解消に向けた指導方法の改善と併せて、学ぶ意欲を喚起する魅力ある授業づくりや、児童が主体的・対話的に学ぶための学習形態の工夫等がより一層求められる。
- ・「単元末評価」を用いて、単元ごとに指導を振り返るサイクルは確立されたが、子供をつまずかせないためには、この指導と効果検証のサイクルを日々の授業においても実行していくことが必要である。今後は、これまで以上に、子供の理解状況の把握を徹底し、その実態に応じて授業を構想することで、子供の「わかった」「できた」を引き出していく。